7-6 動物プランクトン

光合成を行わず、微生物や植物プランクトン等を食べて生きている浮遊生物を動物プランクトンと呼びます。他の動物プランクトンを食べるものもいます。年間を通じて見られる種類や、特定の季節に見られる種類がいます。動物プランクトンは魚介類の餌としても重要です。

1. 動物プランクトン

動物プランクトンの主な分類群には、原生動物、ワムシ類、甲殻類などがあり、琵琶湖では原生動物が個体数としては最も多く分布しています。原生動物には、アメーバ類、太陽虫類、繊毛虫類などの多様な単細胞生物が含まれます。ワムシ類は、頭の部分に車輪の形をした特徴的な器官を持つため、ワムシ（輪虫）という名前が付けられています。甲殻類は何回も脱皮しながら成長する生活史を持ち、中でもケンミジンコ類は大型で多くの節のある足を持っているのが特徴です。

2. 季節変化

原生動物は年間を通じて多く観察され、中でもストロビリディウム属や小型の繊毛虫類に属する種類が多く見られます。また、ワムシ類ではハネウデワムシが年間を通じて多く見られ、ネズミワムシは夏季から秋季にかけて優占する回数が多くなります。甲殻類ではヤマトヒゲナガケンミジンコの幼生であるノープリウスやその成虫が年間を通じて多く優占種となって出現しています。

3. 動物プランクトンの餌は？

食べる餌で動物プランクトンを分けると、2つに分けられます。1つ目は、細菌や植物プランクトン等を食べるグループで、ミジンコやワムシ等です。2つ目は、自分より小さな動物プランクトンを食べるグループで、ノロやケンミジンコ等です（琵琶湖で多いヤマトヒゲナガケンミジンコは前者）。ミジンコの仲間は、環境中の餌を集めるために濾過肢毛（写真7-6-1：櫛状の毛の部分）という器官を持っています。

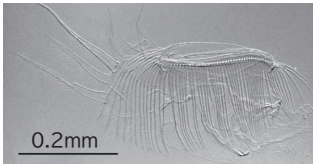

写真7-6-1 カブトミジンコの第3胸脚の濾過肢毛 渡辺圭一郎氏撮影

4. 動物プランクトンが担う餌としての役割

琵琶湖のアユの消化管内を調べると、ミジンコが多く含まれています（写真7-6-2）。湖沼生態系において、動物プランクトンは、他生物の餌としての役割を担っています。

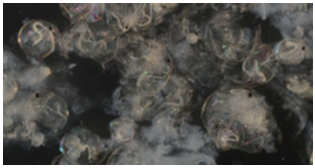
写真7-6-2 アユの消化管内容物 渡辺圭一郎氏撮影

琵琶湖環境科学研究センター **藤原 直樹・永田 貴丸**